ピレリスーパー耐久シリーズ 2018
第4戦
TKU スーパー耐久レース
in オートポリス
「レースレポート」

このプロジェクトは下記のパートナー企業に支えられています

このプロジェクトについて

KONDO Racing ×日産自動車大学校「学生参加プロジェクト」は今年で７年目を迎えた。このプロジェクトは学生スタッフがレースやその運営に携わり、チームワークや責任感を育む活動である。

予選結果

Pos	No	Car	Driver	TotalTime
1	24	スリーボンド 日産自動車大学校 GT-R	内田 優大 / 藤井 誠暢 / 平峰 一貴	3’38’833
2	3	ENDLESS GT-R	YUKE TANIGYCH/山内 英輝 銘苅 翼	3’39’014
3	83	Phoenix Racing Asia R8	Lim Keong Wee/川端 伸太郎 Melvin Moh	3’39’280

7 月 14 日（土)、強烈な暑さに見舞われるハードなコンディションの中予選が行われた。チームの作戦としては、木曜日、金曜日の 2 日間でジェントルマンドライバーの内田選手に合わせたレースセッティングを見つけ、藤井選手、平峰選手がそのセッティングに合わせたドライビングする方法を取った。その結果、A ドライバーの内田選手はグループの中で唯一の 1 分 49 秒台に突入し 1 分 49 秒 717 を記録。B ドライバーの藤井選手の 1 分 49 秒 116 との合算で開幕戦以来となるポールポジションを獲得した。

決勝レース結果

Pos	No	Car	Driver	Lap	Time
1	24	スリーボンド 日産自動車大学校 GT-R	内田 優大 / 藤井 誠暢 / 平峰 一貴	156	5:01’47.378
2	99	Y’s distraction GTNET GT-R	浜野 彰彦/星野 一樹/藤波 清斗	156	5:03’17.450
3	82	Phoenix Racing Asia R8	Alex Au/Shaun Thong/Alex Yoong	156	5:03’20.942

スタートドライバーの藤井選手が好スタートを見せ、序盤は後続との差を広げていった。しかし、Audi R8（＃81）に徐々に追い上げられ、25 周目に 1 位を譲ってしまう。徐々に離されていき、最大 21 秒差がついてしまう。
38 周目に、PIT IN をして平峰選手に交代。素早いピット作業を見せた直後の 43 周目に＃81 のピット作業の間に抜き返すことに成功。18.7 秒差を付け再び 1 位に返り咲き、まさに作戦通りの展開であった。
その後は、平峰選手が安定した走りでリードを保ち、79 周目の PIT IN で内田選手に交代。この PIT 作業でも抜群のチームワークを見せ、27.8 秒と更に差を広げた。
予選から絶好調の内田選手はそこからも差を広げ、約 1 分 20 秒の余裕を持ち 116 周目に再びラストドライバーの平峰選手に交代。タイヤ、ガソリンのマネジメントをしっかり行い、後続との差も保ち危なげなく素晴らしい走りを見せた。今年から 5 時間になった長丁場の激闘の末、今シーズン初優勝、そして、活動開始から 7 年目にしてオートポリス戦念願の初優勝を飾った。

学生の活動の様子
～テクニカル領域・ドライバーサポート～

2年　一級自動車工学科　橋本　夏奈（はしもと　かな）

今回は昨年と違い班のリーダーとして参加し、全く違った緊張感を味わうことが出来ました。最初はうまく指示が出せずに悩むこともありましたが、徐々に改善していき、どう伝えれば相手にわかりやすいかなどリーダーとして必要なことが学べたと思います。私は小さい頃からレースメカニックに憧れています。来年も是非 S 耐のスタッフとして参加し、少しでもレースに携わり色々なことを吸収して成長していきたいです。

1年　自動車整備科　河崎　凌我（かわさき　りょうが）

私はプロのメカニックとピットに入って一緒に仕事をしたいと思いこの活動に参加しました。実際にやってみると、知らない道具や設備ばかりでとても興奮しました。いざフリー走行が始まるとピリピリとした雰囲気の中で様々な貴重な体験をさせていただき、さらに生でプロのお仕事を目にすることができました。プロの現場での空気を味わうことができ良い刺激となりました。改めてこの活動に参加できたことに感謝したいです。

～マネジメント領域～

3年　一級自動車工学科　宇都宮　洋介（うつのみや　ようすけ）

初めて参加した2年前と比べると、自ら積極的に動くことのできる人間になれたと実感しています。今年は班のリーダーを任せていただきました。昔から人をまとめるのが苦手で不安でしたが、今までの先輩方の姿などを思い出し、一生懸命やっているうちに自然とできるようになり成長を感じました。

この3年間で様々な領域の仕事を経験させていただいき、技術的にも人間的にもたくさん成長させていただきました。ここで得たことをこれからの生活に活かしていきたいです。この活動に参加したくさんの貴重な経験ができて本当によかったです。ありがとうございました。

2年　一級自動車工学科　都築　汰知（つづき　たいち）

教えられる立場から今年は後輩に教える立場となり、指示を出す難しさを実感しました。やはり、緊張感のある舞台でのこういった活動は、短い期間で計画し、結果を出すという普段の学校では得られないものを得られました。このKONDO Racing としての活動は勝敗も大事ですが、それ以上にチームで何かをやり遂げるということでまた一歩成長できると感じました。

来年は今年以上に自分のできることを全力で行い、最高学年として愛媛校を引っ張っていきたいです。

1年　一級自動車工学科　鳥井　柾志（とりい　まさし）

日を追うごとに自分は手伝いではなく、KONDO Racingの一員であることを実感しました。サインボードの仕事をした際に、サーキットの音、匂い、スタッフの目つきからとても緊張感が伝わってきました。この貴重な体験から感じたものを無駄にせず、学校生活では何事も結果に結びつくように努力していく所存です。

～スポンサー講座～

Bosch Engineering 様

Bosch Engineering 様は、自動車部品だけでなく、電化製品など様々な分野で活躍されています。その規模は日本だけでなく世界中に展開されており、そのような企業様の講座を聞くことができ学生にとって有意義な時間となりました。実際に車両に使われている部品のサンプルを見せていただき、普段の授業ではあまり目にすることができない物が多く貴重な体験になりました。

ベストカー様

ベストカー様には、広報にとって大切なことなどの講座を行っていただきました。相手にどうすればわかりやすく伝わるか、取材時にしてはいけない事など、広報活動を行う上で欠かせないことを多く学ぶことが出来ました。悪い例文を見せていただいて、手直しするなど、実際に自分たちで行うことで理解を深められたと思います。冷静に、着実に、一歩ずつとういうことを大切にして最高のレポートを作成します。

MAC TOOL 様

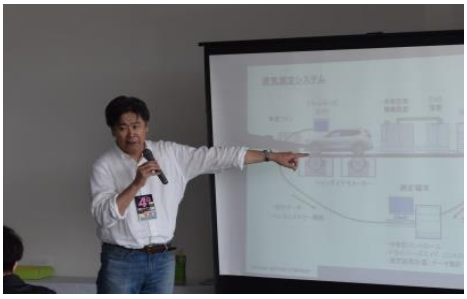
MAC TOOL 様には、工具を購入する上でのアドバイス、最新工具の便利さを教えていただきました。整備士を目指している学生たちは、将来に向けて真剣な目で授業に取り組みました。また、学生のために工具を積んだ車両を持ってきていただき、最新の工具や普段あまり使っていないような工具を見ることができ、非常に勉強になりました。

UD　TRUCKS 様

UD TRUCKS 様に授業をしていただいた第一印象は、「全てが大きい」という印象でした。日頃私達が授業で扱っている部品よりサイズが規格外で、学生皆一つ一つの物に興味津々でした。大型車にしか表現できないスケールを体験することができ、とても良い経験となりました。

トータルカスタマーサティスファクション本部　中井 CVP

日産自動車の内部事情や、今後の方針、GT-R 開発責任者の水野和敏さんとのエピソードについてお話しを頂きました。学生からの質問に対し中井 CVP より、たまたま講話を聴きに来ていた NISMO の田中総監督からもお話をして頂きました。R32 GT-R の製造廃止となった部品についての再生産のことを主に説明をしていただき、学生の自動車への関心がより一層深くなったと思います。



ドライバー、チーフメカニックへのインタビュー

質問内容

Q1　日産自動車大学校の学生を見て思うこと

Q2　他のレースと比べてＳ耐で特に意識していること

Ａドライバー　内田　優大選手（ジェントルマンドライバー）

A1　真剣なまなざしで取り組み、サポートをしてくれ頼もしい存在。生死を分けるような雰囲気を感じ、今後の学校生活や将来に役立てて欲しい。

A2　藤井さんと平峰さんは素晴らしいドライバー。二人の足を引っ張らない、ミスをしないことを心掛けている。

Ｂドライバー　藤井　誠暢選手（プラチナドライバー）

A1　７年目に入り、学生の仕事の仕方が熟成されてきた。勉強に来ている印象はなく、プロとして自覚を持って取り組んでくれている。

A2　Ｓ耐はクラス、台数が多くプロではないドライバーも走っている。少しのミスが命取りとなるのでミスをしないことが一番。

Ｃドライバー　平峰　一貴選手（エキスパートドライバー）

A1. 気温が高く過酷な環境の中、各々がしっかりと仕事をしてくれている。藤井さんと同じく、勉強に来ている印象はない。

A2. 違うクラスが同時に走っており、速度差が大きく非常に危険な状態でのレース。常に集中し、自分のベストを出し切る。

チーフメカニック　武田　敏明さん

愛媛校の生徒の第一印象は毎年そうだが、やはり緊張しているという印象を受けた。これは経験を積んで慣れていくしかないと思う。１日目、２日目と日を重ねて行く上で緊張もほぐれ動きも良くなってきたと思う。S耐というのはレースとしては１位を目指すのは当たり前、ここまでは普段のプロだけがいるレースと同じ。自分たちは生徒と関わるので、いかに生徒をレースに携わらせて経験を積ませるか。これを手助けするのが私たちである。生徒たちには積極的に取り組んでもらい自分の糧にしてほしい。私たちは常に最高のパフォーマンスを提供するために、積極的にコミュニケーションをとり信頼関係を築くよう心掛けている。一人でも違う方向を向いていてはチームとしては成り立たない。そのためにも全員と信頼関係を築いておくことが重要であると思う。

日産愛媛自動車大学校　統括　高橋　潔　先生

今までの６年間前任の大政さんが苦労し、取り組まれてきた内容を側で見守ってきただけに、業務の複雑さと責任の重さに押しつぶされそうな気持ちでした。事ある度に大政さんにアドバイスして頂いたり、サブリーダーの見谷先生に助けて頂いているうちに、たとえ失敗したとしても積極的に取り組まなければ申し訳ない、という感情が強くなってきました。約半数の学生がS耐初参加ですので、積極性やチャレンジ精神などとアドバイスしていることが、そのまま自分に対しての戒めに感じられました。実際に取り組んでみると、大変多くの方々がレースに携わっておられることに驚いたとともに、皆さんのおかげで学生が成長できることに感謝の気持ちを改めて持つ事ができました。

また、学校生活だけではあまり変わることのできない学生の意識が、僅か数日でこんなに成長することに驚きを覚えるとともに、愛媛校の学生を誇りに思います。皆さんの今後の人生に大いに役立つことでしょう。

全体リーダー　3年生　山城　和也

1，2 年生の時にこの活動に参加し、愛媛校が担当するオートポリス戦ではまだ優勝したことがありませんでした。2 年次のオートポリス戦が終わった後、次こそは絶対に優勝したいと思ったのでリーダーをすると決断しました。
本番までに放課後の時間やオープンキャンパスなどの機会を利用して準備をしてきましたが、初日は特に反省点が多く、まとめることの難しさを感じました。しかし、徐々にスタッフ一人ひとりが自ら考え行動する力が身についていくのを感じました。こまめに PDCA(計画・実行・評価・改善)を行い、いろいろなアドバイスをくれた各班のリーダーには感謝しています。そして、オートポリス戦で念願の 1 位になることができ、最後の表彰の時にはシャンパンまでかけていただき本当に嬉しいです。

3 年間の S 耐活動を通して何事も自分から積極的にやることの大切さを学ぶことができ、「昨日より今日、今日より明日！」という考えを持てるようになりました。今後、この貴重な経験を活かし、立派な社会人を目指します。
最後にこの活動をしていくに当たり、たくさんのご支援をしていただいているスポンサーの皆様には本当に感謝しています。今後もご支援よろしくお願いします。

※活動を終えて※

学生スタッフは、短い時間ではありましたが、この活動を通して多くのことを経験できたと思います。そして、この活動は多くの方々のご支援があって参加できたということも忘れず、感謝の気持ちを持って更に成長し続けて行きます。
応援してくださいました皆様、本当にありがとうございました。

制作：愛媛校広報部
3年高橋寛行　2年大野 雅治・上岡晃也　1年武田匡能